

畜舎の排水を利用してにおいを抑える

堆肥を生産する時に発生するにおいが問題になっていますが、畜舎から出る排水を活用したにおい対策技術を開発しました。

畜舎から出る排水中に少量の空気を2週間送り込むと、微生物の作用により汚れが分解され、においのない透明褐色の液体ができます。これを堆肥の材料に混ぜると、堆肥を作るときの不快なおい発生を抑えることができました。処理水中のイオンや微生物が悪臭の成分を利用分解すると考えられています。



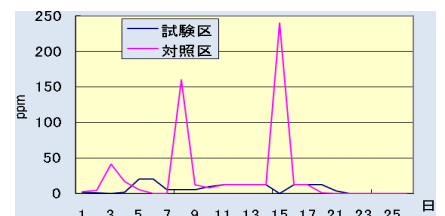
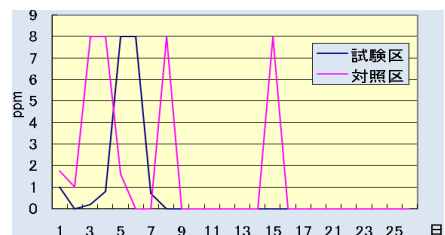
畜舎排水中に少量の空気を2週間送り込みます



できあがった処理水は透明褐色でにおいがありません



処理水を堆肥材料に散布します



不快なおいの硫化水素（上）メルカプタン（下）の発生を抑えることができました（青線が処理水利用）